



国際会長 (IP) ヨハン・ヴィルヘルム・エルドヴィック (ノルウェー)

「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」

アジア太平洋地域会長 (AP) ラチャン・マニカーン (タイ)

「アジア・太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる」

東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)

「挑戦なくして進化なし」

かながわ部長 (DG) 佐藤 節子 (厚木)

「一緒にワイズの未来を輝かせましょう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「つながりを力に、平和な未来へ一歩」

会長 古賀健一郎

副会長 齋藤 宙也

書記 古田 和彦

会計 大高 治

直前会長 齋藤 宙也

監事 松島 美一

ブリテン 秋元 美晴

担当主事 菅原 歩

<今月の聖句>

田口 努

しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」

(サムエル記 16章7節)

今月のひとこと

一人のベトナム人技能実習生の死

秋元 美晴



2026年7月28日の令和8年熊本地震は、発生からまだ1か月と10日ほどであるが、その後、8月に入ると13日には千葉豪雨災害が、27日・29日には石川・富山・福井豪雨災害、そして、2つの豪雨災害の間の8月26日にはネパールと中国・チベットの国境沿いの大規模土石流災害が発生している。このように

国内外で大きな災害が続くと、令和8年熊本地震の記憶はなぜか遠くに感じる。

みなさんは、令和8年熊本地震で一人のベトナム人技能実習生が亡くなったことをご存知だろうか。死亡したのは北部ニンビン省出身の24歳のチャン・バン・ソンさんで、工場で技能実習生として働いていた際、クレーンの下敷きとなり死亡した

といわれている。チャンさんは長男が生まれたばかりで、将来の生活基盤を築こうと来日したばかりだったという。

私はチャンさんがなぜ逃げられなかったのだろうかと考えた。誰かが「危ない、逃げろ!」と言っても分からなかったのではないかと、もし、日本語が分かったら、死なないで済んだのではないかと。そう思うと、今でも胸が締め付けられる気がする。私は元日本語教師である。私が実際に留学生に日本語を教えていたのは、もう35年くらい前のことであり、そのころは、最近のように大きな災害もなく、日本に来た留学生たちや海外の日本語学習者にサバイバル日本語として教えていたのは、道に迷ったとき、トイレを探しているとき、タクシー運転手さんに行先を告げるとき、何か困ったときの助けを求めるときなどの表現であった。

チャンさんのような技能実習生が入国するときに必要な日本語能力は簡単な日常会話や基本的な文法を理解できる状態だという。どれだけの日本語をチャンさんは知っていたのであろうか。災害の多い昨今である。ぜひ、チャンさんのような悲しい事故が二度と起きないように、来日する/したばかりの外国人に日本語を教える際にサバイバル日本語とサバイバル方法を教えてほしいと願ってやまない。

<2026年8月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
10名	メン 9名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 4名 ゲスト 2名 合計 15名	90% 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<9月の行事>

EMC

日	曜	時間	行事内容	場所
10	木	18:30 ～20:00	第一例会	中央Y
23	水	10:00 ～ 17:30	横浜 YMCA フェスタ ～私たち会員の集い	湘南とつかY
24	木	18:00 ～20:00	第二例会	Zoom

第一例会 (かながわ部合同納涼例会) 報告

古田 和彦

日時：8月27日(木) 18:00～20:00

場所：ロイヤルホールヨコハマ

出席者：(横浜) 秋元、大高、押川、古賀、齋藤、佐竹、菅原、田口、古田(鎌倉) 板崎淑子、千葉裕子、藤井千枝子、水出大河(厚木) 井筒幸乃、加藤誠、佐藤節子、徳澤洋子(金沢八景) 大村悠、木村久仁夫、雲走和孝、峯尾舜、山田一男(横浜つづき) 今城高之、坂口直樹、鈴木茂、森山真治(横浜つるみ) 久保勝昭、久米康子、後藤美紀、中村純子、松尾直、村中孝子、渡邊光枝(大和クリエイティブYサービス) 宇井崇、植木陽子、小松伸史、島田徹

ゲスト：許陽、高寺幸江

ビジター：山下真(理事・十勝)、山口直樹(東京ワイドウエスト)、為我井輝忠(東京多摩スマイル)、榎本博(伊東)

計43名

8月の納涼例会がかながわ部行事となって2年目です。もちろん、横浜クラブの第一例会であることには変わりありません。私たちのクラブからは、上記のように9名が参加、また、2名のゲストを呼ぶことができました。横浜YMCAが各クラブに配置している担当主事も全員参加してくれたほか、理事の山下真ワイズ、区書記の榎本博ワイズなど区や東京の方々もおいでくださり、部の行事にふさわしい会となりました。

定刻18:00、司会は古田ワイズにより開会。佐藤かながわ部長の点鐘と挨拶。一同で、ワイズソングを歌い、ワイズの信条を唱和し、押川ワイズが今月の聖句、イザヤ書12:2を朗読し、祈祷をささげました。この聖書箇所は、ボンヘッファーが作詞した讃美歌21の469番の基となっていること、神を信頼するとき、こころは恐れから解放され、神が与えてくださる平和(シャローム)に包まれると話されました。続いて、2名の方から挨拶をいただきました。山下理事からは、今年度の国際会長以下が唱えているブリーミュージックについて、佐竹横浜YMCA総主事からは担当主事の紹介と熊本地震へのYMCAの支援体制や募金へのお願いがありました。乾杯は、最長老である横浜つづきクラブの鈴木茂ワイズでした。そのあと、食事・歓談に入りました。

座席は、受付時に抽選で決められ、5テーブルに8～9人ずつ

座り、おいしい料理を堪能しました。8:40頃からは、久保ワイズが音頭を取って、各クラブから代表の人がカラオケに挑戦。横浜クラブからは、秋元ワイズとゲストの許陽さんが「北国の春」を日本語・中国語で歌いました。続いて、ビンゴゲーム。部書記の坂口さんがパソコンで数字を画面に映し、私たちは手元のカードを見るというやり方。5人がビンゴとなったところで終了しました。報告・連絡では、榎本区書記から10/17・18山中湖で行われるキャンプについて、今城ワイズから10/24のYou & Iコンサートについてアピールがあり、最後にハッピーバースデー、古賀ワイズなど5人をみんなでお祝いしました。横浜クラブ古賀会長の閉会点鐘・記念撮影で定刻20時に閉会しました。

最後に私の感想です。まず、坂口ワイズがあらゆるところでパソコンを利用して新しいことをしてくださいました。ビンゴのことは前記しましたが、式次第を会場に映し出したり、ワイズソングを流してくれたりです。また、佐藤部長からは、参加者全員に爪楊枝とゴミ袋のエチケットセットがプレゼントされました。熊本地震支援について皆様にアピールした結果、24,001円の募金がありました。すべてに感謝いたします。



押川ワイズの開会祈祷



ゲストの許さんと秋元ワイズの合唱



みなさんご一緒に！

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

古田 和彦

横浜での第 33 回目となるエイズ文化フォーラムが、8 月 7 日（金）から 9 日（日）まで、横浜市神奈川区鶴屋町のかながわ県民センターで行われました。この企ては、1994 年 8 月横浜で開催された第 10 回国際エイズ会議をきっかけに、横浜 YMCA を中心とする市民たちの手弁当で始めたものです。文化フォーラムとしているのは、この問題は医療の分野だけのことでなく、文化の問題としてとらえ、多角的に広く取り組んできています。横浜ではそれ以来毎年開催し 33 回目を迎えました。

8 月 7 日、10 時開会式、会場にはおよそ 150 名の方々が集まりました。また、オンラインで参加の方もいます。組織委員長の横浜 YMCA 総主事佐竹博さんはじめ、横浜いのちの電話、カトリック横浜教区、神奈川県保健福祉局の代表者とともに、ワイズメンズクラブかながわ部長の佐藤節子さんから挨拶がありました。また、今まで運営委員としてかかわってこられた岩室紳也医師が組織委員となり挨拶されました。開会式に続いてオープニングセッションが行われ、元広島大学病院の高田昇医師が「何もわからず素手で立ち向かってきた時代から今まで」と題して講演をされました。血友病に関わっていた高田医師は、エイズがまだよく認識されていなかった 1982 年から輸血の血液に HIV が入り込んでいることをみつけ、先駆者として大変ご苦労をして対応していました。それから約 40 年を経た今日までの治療の進化、制度（厚生労働省による）の変遷、人々の認識の変化などデータや法制度を使って丁寧に説明されました。そして、正しい情報が伝わるのが偏見や差別をなくす最も大切なことだと話されました。

多くのボランティアに支えられ、エイズに対する偏見をなくすこの運動は、エイズ感染者に限らず LGBTQ などマイノリティの方々の人権を守り、生きやすい世の中を作り出す働きの一端を担っているのだと、しみじみ感じました。

横浜クラブの参加者：佐竹、古田

近 況

日高見国のロマン

大高 治



6 月上旬ワイズメンズクラブの東日本区大会で、石巻市を訪れました。その晩餐会の会場で「日高見」という銘柄の菰蓐りに出会いました。石巻の地酒を代表する一本です。宮城県酒造組合は古代史との関係で日高見（ひたかみ）の名称は「北上川」の昔の呼称（日高見川）に「日高見国」を重ね合わせたものと説明しています。醸造元は経営の立て直しを図ろうと新しい銘柄を考えていた時、廃盤商品に「日高見」のラベルがあることを発見しました。日高見が石巻、北上川周辺と深く関係していることを知り、吟醸酒「日高見」ブランドを 1990 に復活させたのです。この酒の歴史はまだ短い、廃盤の前には長い歴史があったものと思わ

れます。日高見国の言伝えは縄文時代まで溯るのです。

日高見国は「太陽が高く昇る所」、日の出が早く見える所、すなわち太平洋に突き出た犬吠埼のある関東地方ではなかろうかと思っていました。鹿島神宮、香取神宮は伊勢神宮より前に創建されて皇室と深い関係のある神宮でもあります。ところが今般、石巻で「日高見」を発見しました。三陸海岸は東経 141°、北海道を除けば日本で一番早く日の出を拝める一帯です。日高見国は、日本書紀では東方の地、常陸風土記には東の境、また神道で大切な祝詞の大祓詞の中で「大倭日高見国」と書かれています。大きな地域だったのです。しかし、文字や建物跡が残っている訳でもありません。本部はどこか、行政上の国のように実在した国家として、いつ成立し、いつ滅んだかは分かりませんが、ヤマト王権から見た古代の東方世界の単なる伝承的な国名だと言い切ることは出来ません。

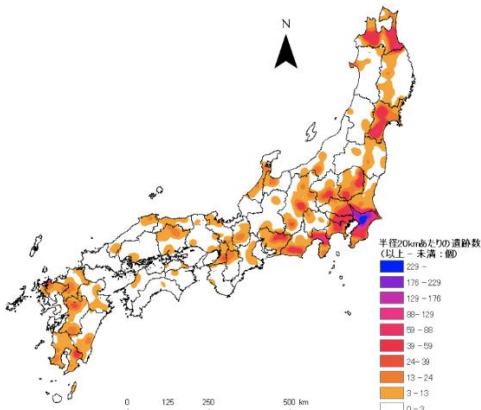
ローマ大学客員教授などを歴任し、ルネサンス美術の巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチの作品修復のリーダー役を携わるなど、西洋美術研究の世界的権威で、東北大学の名誉教授、田中英道先生は西洋美術史を基盤にしつつ日本美術にも研究を広げて、その価値を評価して来た美術史の研究者です。日本の縄文土器は 16500 百年前にさかのぼり、世界最古です。そして縄文時代は 3000 年前までの長きに渡っています。田中先生は「基本的に 1 万年前ごろから日本には国があったのではないかと、遺跡が徐々に多くなって来た縄文中期、人口が増えて来た 7,000 年前から 5,000 年前には、すでに日高見国が成立していたのではないかとと思われる」と述べています。田中先生はこれまで歴史家たちが「文字を残していないがための見落とし」をつなぎ合わせて、縄文時代の真実と、現代まで受け継がれる高度な「日本精神の秘密」を解き明かして来ました。実用性や芸術性の高い遺跡や土器（火焰型や漆を塗った土器）、土偶（縄文のビーナス）などの価値を形や模様などから、さまざまな背景情報を独自の研究手法「フォルモロジー」で読み取って来た考古学者、歴史学者でもあります。

かの有名な青森県の山内丸山遺跡は、5900 年前から 4300 年前の 1600 年間約 600 人が定住していた縄文都市的な存在です。300 人が入れる横長の建物では、共同体の重鎮 6 名が中央で話し合い、それを住民が聞けるようになっていたのです。民主主義のような概念でまとまっていたのではないのでしょうか。また外の 6 本の柱から成る高い建造物は、遠く魚取りに出かけた仲間が灯台のように活用出来ただけでなく、天体観測の役割をも果たしていたようです。春夏秋冬、日の出、日没を正確に捉えていた南米のインカやマヤの遺跡のように。この長い間に培われた私たちの祖先の日常の営みが、今日尊ばれる日本人の善とするところ、得意とする事に繋がっているようです。共同体での助け合いに分ち合い、遠方からの稀人のおもてなし、美しさや実用性を極める匠の心がそれらに当たると思います。今、日本を訪れる外国人や日本に住む外国人の多くが驚嘆することは、「日本人は手抜きをしない。無人販売店がある。一々疑わなくて良い社会だ」とのことです。多くの日本人にとっては「当たり前」ですから、自らは気が付かないことです。

縄文時代の人骨から集団での戦いの痕跡が見つかっていないと研究者は述べています。この時代の闘いは人対人ではなく「地震、雷、火事、オヤジ（台風）に津波を加えた自然の脅威」です。隣人、班や組のような小集団から大は幾つかの村落

共同体が協力して立向ったことでしょう。この災害列島に生きて来た民の絆や気質は縄文時代に培われ、代々積み重ねられて来たのだと思います。

10 年前、朝日新聞は人類が初めて日本に到達したのは、大陸朝鮮ルートからの 3 万 5 千年前と発表していました。今日では船による海岸、島伝えでの移動の南方ルートの方が早く 4 万年前と言わせています。台湾には 3 千人の男女が船出して日本をつくったという言い伝えがあります。人類発祥の地アフリカは 10 万年前、緑豊かな所でした。人類は食べ物を求めて豊穡の地を離れたのではありません。あらゆる文明は太陽信仰を基本にしているとのことです。日本に到達した人たちも太陽を目指して来たのでした。石器時代の遺跡は関東、南東北に多く、次に来る縄文遺跡と重なるところも多く、「太陽が高く上る所」に加えて住み良さも大切な要素だったはず。次の地図をご覧ください。縄文遺跡は千葉県北西部、鹿島、香取の西に集中し栃木、宮城から青森県に繋がっています。あたかも縄文道があったかのようです。その北は北海道の日高に繋がり、西は山梨、長野の遺跡の多い中央高地を経て、岐阜県の飛騨も日高見の一端とのことです。共同体間の交流が推察されます。



(出典：枝村俊郎、熊谷樹一郎「縄文遺跡の立地性向」を田中英道著「日本創世史」で引用)

縄文時代の人口は東日本 90 に対して西日本 10 ですが、寒冷化が進むにつれ、西へ南へと移住して行きました。「日本創世史」から縄文各期の地域別人口を見ると、

早期には東；17,300 人 (86%)、西日本；2,800 人 (14%)

中期では東；251,800 人 (96%)、西；9,500 人 (4%)

晩期には東；64,900 人 (86%)、西；10,900 人 (14%) になります。

弥生時代になると急激に人口が増加しました。米による栄養の改善と大陸からの移住者の増加が要因と思います。

ユダヤ系フランスの文化人類学者、民族学者のクロード・レヴィ＝ストロースは、「神話と歴史が密接につながっているのは日本文化の大きな特徴」と述べています。

縄文晩期からは天孫降臨の時代、神話の世界のように思います。鹿嶋市には今も「高天原」町があります。天の高天原からの降臨でなく、最初に日本に来た時と同じように船での降臨すなわち移動ではなかったか。そして高千穂の峰から神武の東征が開始されました。

石巻での銘酒「日高見」との出会いはこのようなロマンに至りました。



担当主事 菅原 歩

横浜 YMCA の 9 月は、多様な人々が互いの違いを認め合い、地域社会の中で「ともに生きる」ための温かな交わりとつながりを紡ぎ出す季節です。

私たちは、「自分のために生きる」から「ともに生きる」社会の実現を目指し、国籍や世代を超えて支え合える場づくりを大切にしています。「ともに生きる」とは、ただ同じ場所に集うだけでなく、相手に関心を持ち、その背景を理解しようとする日常の小さな一歩の重なりです。

秋の歩みが始まるこの時期、これらのプログラムを通じて、一人ひとりが地域を温かく豊かにするパートナーとなり、誰もが自分らしく安心して暮らせる社会をワイズメンズクラブの皆様と共に築いていきたいと願っています。

9 月

10 日(木)：とつか聖書を学ぶ会

12 日(土)：多文化共生を考える講座

23 日(水・祝)：横浜 YMCA フェスタ～私たちの集い～

9 月第一例会プログラム

日時：9 月 10 日

場所：中央 YMCA

司会：古賀ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・・・・・・古賀会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・・全員
3. 今月の聖句・・・・・・・・田口ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介・・・・・・・・古賀会長
5. 卓話 「東日本区大会参加報告」
・・・・ユースリーダー 常田風花
6. ビジネス・報告
7. Happy Birthday
8. 閉会点鐘・・・・・・・・古賀会長

例会報告 古賀ワイズ

10 月の行事予定

日	曜	時 間	行 事 内 容	場 所
8	木	18:30-20:00	第一例会	中央 Y
17	土	8:00-12:00	インターナショナル チャリティーラン	臨港パーク
10	木	17:00-18:00	第二例会	Zoom

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org

電話 045-307-7556

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★